

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397400058		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム西春の泉(1F)		
所在地	北名古屋市鍛冶ヶ色西2丁目100番		
自己評価作成日	令和2年8月19日	評価結果市町村受理日	令和2年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouId=2397400058-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和2年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染拡大によって地域行事や慰問が中止となっているなかで外食・おやつレクは代替で近隣店舗にてお弁当・出前・ケーキや和菓子の購入提供を行っている状況となっている。施設地域からも感染者が出ている為しばらくは自粛の続く状況ではありますが、新しい生活様式・ワクチン治療法の確立にあわせ再開できるようにしていきたいと考えております。新規入居されたご家族様にも今現在の状況では無理ですが外出・外泊等が本来であれば出来る事はお伝えしております。入居者様が一緒に昼食やおやつ作りに参加できるようなレクリエーション等を実施しつつ支援させて頂いております。敷地内畑にて野菜・さつまいもを植えており近所の人からの助言や地域の農協の方に教えて頂きながら畑を作っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な新築住宅や町工場が建ち並ぶ一画に、9年目を迎えたモダンな外観の事業所がある。「一人ひとりの笑顔と想いを大切に、地域の一員としてみんなに愛されるホームを目指す」を理念に、その人の今までの生活の継続をしながら、今の生活に生かして過ごせるように、職員間で話し合いケアにつなげるように心がけている。地域の人脈や資源を活用しながら地域に開かれた事業所を目指して、敷地内に自販機とベンチを設置し地域の方も憩える場の提供をしたり、地域の祭りの子ども獅子の立ち寄りや園児、中学生、ボランティアなどとの交流をしたり、四季折々の移ろいを感じながらの散歩や買い物、花見、外食などを一緒に楽しんだりしているが、今年はコロナ禍で地域との関わりが踏みとどまっている。情報をこまめに入手して状況を確認しながら対応策を検討したり家族に情報を流したりしてケアに繋げるように工夫をしている。玄関ホールの空間に椅子を置いて、面会の場や気分転換を図る憩いの場にした。農協に菜園の手入れを相談して育成を工夫し、四季の作物を入居者と一緒に収穫して食卓に彩を添えている。季節の花見や外出、外食などの自粛に伴い、希望を聞いて弁当や寿司などの宅配を利用したり、週一回のお任せメニューや大エビフライ、バーベキュー、おやつなどを手作りで食生活を楽しんでいる。居間で、洗濯たみや食事の下ごしらえを手伝ったり、ソファに腰掛け気の合う方とお喋りを楽しんだり、テレビを見たりしてのんびりと過ごしている。職員は、一人ひとりの笑顔と想い、その人なりの生活スタイルを大切に支えていけるように、気持ちを一つにしてケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をフロアに掲げ共有してより良い支援が出来るよう心掛けている。	事業所理念を各フロアに掲示している。笑顔あふれる温かい環境と、みんなが楽しく、その人らしく過ごせることを目標にして、申し送りや会議等で再確認し行動の指針として日々のケアを振り返り共有と実践に努めている。コロナウイルスの感染対策や、日々変化する情報や状況を手入して的確に対応し、穏やかに暮らせるよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外食レクや買い物といった外出が新型コロナウイルス感染拡大の為に実施できない状況であります。誕生日やおやつレク、畑での作物の相談を近隣店舗や農協を利用して行い地域とのつながりを保っている。	町内会に加入し、情報を得ている。今年度は、コロナウイルスの感染拡大と緊急事態宣言等の発令により子ども会や地域のお祭り、ボランティアの慰問、外食など殆どの行事が中止となっている。今後状況を見ながら順次再開する予定にしている。地域の飲食店でテイクアウトや配達を利用したり作物の栽培を農協に相談などをして今までとは形を変えた交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	屋外での散歩等で外にいる際近隣の方から挨拶して頂けることもあり畑などでは近所の方から助言を頂く事もあります。ご家族様には毎月の施設での様子を施設だよりにて写真・居室担当者のコメントを添えてお伝えさせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度市の高齢福祉課・地域包括支援センター・民生委員・御家族様・入居者様にて実施しておりますが新型コロナウイルスの影響で中止となったり出入り制限がある中で感染対策を取りつつの実施となっております。	入居者や家族代表、民生委員、包括支援センターや市職員の参加を得て2か月に1回実施しているが、緊急事態宣言発令時は中止とし、解除後は施設入室規制により感染対策をとって実施している。施設の運営や活動内容、事故報告や対応などを報告し、会議の場に出された意見や提案等は記録して職員会議などで協議しサービスの向上に活かしている。家族の参加に課題はあるが会議録は、家族全員に郵送している。	運営推進会議は、情報の交換の場でもあり、サービスの向上に繋がる機会でもあることを入居者家族や地域に知っていただき、より多くの家族が参加できるように、西春の泉のおたよりなどで案内をしたり、年間計画で予定を知らせるなどの工夫をして、開かれた交流ができるよう継続的に発信していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	安心して治療が受けられるよう入院時には施設サマリー江尾作成して入院先への情報提供を行っている。緊急時には往診医へ連絡して紹介状送付を依頼している。	運営推進会議に市の担当者が毎回参加し情報やアドバイスを得ている。申請の代行業務などで役所へ出向き報告や相談、サービスの内容などを伝えている。コロナウイルス等の感染対策や食中毒警報や感染症などに関する情報はFAXなどで適宜入り運営に役立っている。また地域の困難事例の受け入れの依頼や相談を行うなど良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のみ交通量の多い幹線道路に面している為施錠を行っておりますが施設内は開放して過ごさせて頂いております。身体拘束委員を定め定期的に勉強会を実施して身体拘束にならないケアの実施に取り組んでおります。	身体拘束委員会の会議や運営推進会議などで身体拘束について勉強会を実施している。職員は、人としての尊厳を大切に身体拘束やスピーチロックをしないケアをしていくことを周知し理解を深めるようにしている。エレベーターや階段などは、安全に利用できるよう工夫をして自由な生活空間を提供し、束縛感のない生活が送れるよう配慮している。	身体拘束やスピーチロックをしないケアを周知しているが、気の緩みや無意識に職員サイドの言葉かけや対応になっていないかなどを検討する機会を作り、最善のケアと職員の意識の向上に向けて一層の努力を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で声を掛け合いながら虐待防止に努めており身体拘束と共に勉強会や動画研修によりどのような行為が虐待・身体拘束ととらえられるのかを認識して頂けるよう研修を実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会の実施は行っているが例年市が主催する勉強会等で勉強する機会があるが今年度は中止になる事も多く動画による研修のみとなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書に基づき説明を実施、不明な点があればその都度相談に応じ対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	申し送りノートや介護記録にて職員間で情報を共有してケアに反映させている。運営推進会議にて情報発信を行いケアに対して御家族様や本人の希望を取り入れより良いケアができるよう心掛けている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞いている。意見や要望などは、申し送りノートに記録してミーティングで検討して情報を共有し運営に反映させている。新型コロナウイルスの影響で面会も制限される中、機会を見つけて聞くようにしてケアや業務改善に役立てている。グループホームだよりを毎月発行し、入居者の日ごろの様子を記載して家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で出た意見や運営に関する意見を適時法人に伝え働きやすい環境作りに努めている。	日常の業務の中や申し送り時、またカンファレンスで職員から提案や要望を聞き、協議をして運営に反映させている。全職員に年2回人事考課を導入して自己評価を行い、自らの力量を正しく理解し、向上心を持ってより良いケアに繋げるよう努めている。また、所属長評価や施設長評価を行い、必要があれば管理者と面談をしている。随時話し合う機会を持ち、業務や職場環境などに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人の勤務状況の把握に努め相談しやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会への参加や動画研修を取り入れて基本の再確認やスキルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会を実施していたが現在は中止となっており施設管理者同士の交流・情報交換が出来る場として機能していました。状況を見ながら再開のタイミングを計っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・御家族様と面談を行い本人の希望を伝えご家族様からも希望を聞き送りノートやミーティングによりスタッフ間で情報を共有して安心した生活作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時・面会等に御家族様とコミュニケーションを図りご家族様との信頼関係作りを行い相談事等随時対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時・サービス提供時にはご家族様から要望を伺い入居者様に必要とされるサービスの提供に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とスタッフで協力して共同生活を行い本人が出来る事は自己にて行って頂けるよう働きかけるだけではなく出来ない事は支援して行って頂く事で出来る喜びを感じて頂ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時のコミュニケーションや施設だよりを通じてご家族様に日常の様子を知って頂くと共に希望や要望に対しての変更がないかを確認させて頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスにより中止となつてはいるが面会時一緒に過ごして頂ける様に配慮したり外出外泊の機会を設けて頂けるように入居時にお伝えしている。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所を把握し、今までの生活が再現できる支援を目指している。家族や友人、知人の面会については、新型コロナウイルスの状況を確認しながら情報を発信し、臨機応変に対応をしている。今は馴染みの人や場所には出かけられないが、関係が途切れないよう施設内で工夫をした支援に取り組んでいる。また趣味の習字や手作業、日常の家事や畑仕事などを通して今まで培ってきた経験を日常に生かしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活歴を把握して共通の話題になりそうな話で会話に入ったり作業の際はその人のペースに合わせて作業が出来るよう働きかけ支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談頂けるようお声掛けをしたり年賀状により関係が途切れない様になっている他に地域の施設という事もあり出先でお会いする事も多くコミュニケーション行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や本人とのコミュニケーションを通じて希望や相談事を聞いている。申し送りノートを活用して本人の希望をスタッフ間で共有できるようにしている。	日常の入居者との関わりや会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことを申し送りノートに記入して会議などで話し合い職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方には、寄り添ってタイミングを見計らって意向を判断したり、家族と情報を共有し一緒に支えていく努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人やご家族様から生活歴を伺いスタッフ間で共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に記入する事で情報を共有し一人一人の身体状況や生活リズムの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングとカンファレンスを行い、その内容をケアプラン反映させると共に御家族様からの要望をお伺いしてケアプランの作成を行いご家族様・入居者様に説明を行っている。	担当職員が入居者の意向を聞き、日々の介護記録を毎日確認しながらケアをしている。毎月、重点ケアプラン活動用紙にケアの重点目標を設定して情報を共有しながら実践し、3か月ごとに食事、排せつ、日常生活について、モニタリングを行っている。6か月ごとに介護計画の見直しをしている。医師や看護師などの意見や家族の意向等を踏まえながら、問題や課題について話し合い情報交換をして現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・業務日誌・申し送りノートにより情報共有を行い、それをもとにカンファレンスを行う事で介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせた機能を取り入れADL低下防止に努め柔軟に対応出来るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今回ほとんどの行事等が中止となっているが慰問団体や子供会地域民生委員との関係維持に努め再開の際には声を掛けられるようにしている。誕生日会や外食の代替で行うレクに関しては地域の店舗からの購入を行い関係を継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診による専門医への受診はスタッフが行う事で医療機関への情報伝達が正確に出来るように努めている。元々受診していた専門医の受診等ではご家族様にも協力、外出の機会として協力して頂いていたが感染予防のため現在はスタッフにて行っている。	入居時にかかりつけ医、提携医の希望を聞いているが提携医に変更される方が多い。内科は月2回、歯科は週1回提携医による往診と口腔ケアが受けられる。専門医の受診はコロナウイルス感染防止のため現在は施設で対応し、受診結果は申し送りノートと個人記録に記載して情報を共有している。薬は法人の薬局が持参施設内の看護師が管理している。訪問看護師とも連携を取り健康管理に努めている。身体状況に変化があった時や緊急時は、24時間体制で主治医や提携医、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの体調の変化も施設看護師の報告を行う事で異変の早期発見に努めている。訪問看護師にもすぐに連絡がつくようになっており適切な対応が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	安心して治療が受けられるよう入院時には施設サマリーを作成して入院先への情報提供を行っている。緊急時には往診医へ連絡して紹介状送付を依頼している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で過ごされる場合に適切な対応が出来るよう御家族様・本人から希望を伺い往診医・訪問看護師と連絡を取りながらスタッフ間で情報を共有して適切な対応が行えるように努めている。	重度化や終末期、看取りについては入居時に家族に方針等を説明した上で意向や希望を確認している。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は早めに家族に報告して、医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。また職員が看取りに向けてチームで取り組むための支援やメンタルについての研修を重ね日々のケアの大切さも説明して事業所全体で取り組んでいる。家族も共に看取る体制も整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習に参加しAEDの使用や心肺蘇生の知識を習得、急変時対応できるようにしており期間の空いたスタッフは再講習を行う予定		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様と共に避難訓練の実施や備蓄食料の使い方や災害時トイレキットを実際に使用体験を行い備えている。	年2回地震や火災などの災害を想定した訓練を夜間の職員体制で実施している。各フロアごとに避難誘導や避難経路の確認と通報・消火訓練をしている。問題点は職員で話し合い改善に努めている。冠水の危険性の高い集中豪雨では、常にライブカメラで水位や市の情報を確認しているが、水害時の訓練は課題となっている。備蓄品は、リスト化され、水や食料など5日分が各フロア倉庫に用意されている。玄関には、緊急時の非常持ち出しのリュックとAED、消火器が設置、収納されている。	想定外の災害が多く発生し、水害も心配されることから、緊急時のマニュアルの整備や水害を想定した訓練も併せて行うことが重要である。再度、消防関係者の指導や助言を受け、安全性の高い訓練の実施を望むとともに、地域との交流を深め連携を強化して有事に備えて協力関係が築かれる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の行動や気持ちや自尊心を傷つけないような声掛け対応を心掛けているが職員によっては大きな声で聴いてしまう事もあり、その都度指摘して気を付ける様にしてもらっている。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使い、声のトーンなどお互いチェックし合っている。氏名などに配慮が必要な場合は、イニシャルで表現して入居者それぞれの人間関係にも注意を払った言葉使いや対応に努めている。思いやりと笑顔あふれる暖かい環境作りを大切に支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレや入浴時には必ず本人へ声掛けを行ってから誘導している。拒否が強い場合には無理強いをせずタイミングや声掛けの工夫して応じて頂けるような声掛けを行う様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせた生活を送れるように、どのように過ごしたいか伺いながら支援を行えるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣の際にはご本人に服を選んで頂くよう働きかけ自己決定が困難な入居者様には同じ服装にならないように配慮を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的な献立はあるが季節によって旬の食材を使ったメニューに変更したり季節によって麺類等は温かいもの、冷たいものと入れ替えたりしている。また誕生日にはリクエストを聞き本人が食べたいメニューを取り入れている。	献立を基に季節の食材を取り入れてユニットごとに、毎食手作りしている。菜園で収穫した野菜や家族や近隣から頂いた食材が食卓に彩を添えている。調理や準備、後片付けはその人の得意分野を生かし、職員と一緒にやっている。職員も同じテーブルを囲み、食への関心を引き出すような会話やその人のペースに合わせた食事時間を整えている。外出自粛が続く中、笑顔で過ごすために週一回のお任せメニューや大エビフライ、バーベキュー、手作りおやつなど施設の中で楽しみながら気分転換を図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量・水分長を確認して介護記録に記入を行い本人にとっての適量であるかを確認しながら提供している。飲み込みや体調・体重の増減を考慮して食事量や形態の見直しも随時行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施、希望者には毎週1回の歯科往診にて歯科衛生士による口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録により個々の排泄パターンを理解すると共に、その人に合わせた声掛け・誘導を行いトイレで排泄できる様に努めている。	トイレでの排泄を基本としており、排せつの自立を目指している。個々の排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援をしている。本人の希望で夜間のみポータブルを利用することで安心して排泄ができる環境を整えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を観察すると共に起床時に水分補給や牛乳を飲んで頂くようにしている。朝食時には乳酸菌飲料等の提供を行うと共に体操や散歩等で体を動かして頂けるようにして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を目安に入浴を実施。本人の気分・体調に配慮した声掛けを行うと共に体調が悪い際には中止にする事もあるが不調が続く場合には陰洗や清拭を行う等で清潔を保てるようにしている。	入浴は週3回を目安に行っているが、希望があればいつでも入浴できる環境を整えている。お湯は循環式で温度調節やお湯の補充機能で常に清潔に保たれている。また、季節のゆず湯やしょうぶ湯などを利用して入浴を楽しめるよう配慮している。各自お気に入りの化粧水や乳液などで肌のお手入れをしている。冬季は暖房機を利用してヒートショックに配慮している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や気分、生活のペースに配慮しつつ本人が無理をして起きている事のない様に休息できるよう声掛けを行う様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の内容が分かる様に個人ファイルに最新の薬情をファイリングすると共に服薬確認・名前・日付確認を2人で行い間違いや服用忘れがない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動で出来る事を分担して行って頂くと共に趣味のある入居者様には趣味の時間を取れるよう配慮した働きかけを行っている。特定の趣味がない方に関してはゲーム等に参加して頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外食や喫茶レク等で外出できる機会や楽しみを設けていたが新型コロナウイルスにより自粛が続いている。ある程度治療薬や感染時対応が確立して外出できるようになった際には買い物物の同行や外食等再開させていきたい。	日常的に散歩や買い物に出かけられる環境にあり、お天気の良い日には花壇や菜園の手入れをしたり、野菜の収穫なども行い外気に触れる機会を大事にしている。現在は新型コロナウイルスの影響で喫茶店や外食などの外出支援は自粛している。今後安心して外出できるようになればドライブで紅葉狩りなどの外出支援を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にてお預かりさせて頂いているが遠足等の遠出や買い物等での外出の際には職員と共に使う事が出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様了解のもと本人希望時に電話で話せるようにして、用事でこちらから電話をした際に話して頂ける時間を作るといった配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りやカレンダーを作り掲示すると共に季節に合わせた工作物をレクにて作成して飾る事で季節感のある室内装飾を行えるように努めている。	共用空間は、食堂と居間がワンフロアで明るく風通しが良く開放感がある。リビングの壁には、四季を感じられる手作りカレンダーが飾られ落ち着いた清潔感のある生活空間になっている。キッチンからは入居者の動きや気配がよく見渡せ、調理を行いながら入居者を見守ることができる配置となっている。リビングでは、ソファでテレビを見たり、食堂の椅子に座っておしゃべりや新聞を読んだりして居心地よく過ごせる環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見守りや介助が必要な食事の時だけは座席を決めているが、そのほかの時間では仲の良い入居者様同士と一緒に座り会話を楽めるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様に使い慣れた物を持って来て配置するといった配慮を行うと共に本人の使いやすさを考慮した配置を本人と相談しながら行う様にしている。	居室には、使い慣れたベットや筆筒、好みの椅子、仏壇、テレビなど、自宅で使用していたものを持ち込み安心できるスペースや環境づくりをしている。また、愛着のある手作り作品や写真などを飾って自分らしく落ち着いて過ごせるよう配慮をしている。畳を敷いて和室生活など様々な生活様式に対応し入居者が環境を選択できるように配慮をしている。清掃を自身で行う方もおり自立した生活が送れるような支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の状況に合わせて出来る事は行って頂き出来そうなことを見つけ行って頂ける様に働きかけ出来ない事はお手伝いできるように支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397400058		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム西春の泉(2F)		
所在地	北名古屋市鍛冶ヶ一色西2丁目100番		
自己評価作成日	令和2年8月19日	評価結果市町村受理日	令和2年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/z3/index.php?act=on_kounyou_detail_022_kani=true&ligvsvaCd=2397400058-
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和2年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染拡大によって地域行事や慰問が中止となっているなかで、外食・おやつレクは代替で近隣店舗にてお弁当・出前・ケーキや和菓子の購入提供を行っている状況となっている。施設地域からも感染者が出ている為しばらくは自粛の続く状況ではありますが、新しい生活様式・ワクチン治療法の確立にあわせ再開できるようにしていきたいと考えております。新規入居されたご家族様にも今現在の状況では無理ですが外出・外泊等が本来であれば出来る事はお伝えしております。入居者様が一緒に居る食やおやつ作りに参加できるようなレクリエーション等を実施しつつ支援させて頂いております。敷地内畑にて野菜・さつまいもを植えており近所の人からの助言や地域の農協の方に教えて頂きながら畑を作っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な新築住宅や町工場が建ち並ぶ一画に、9年目を迎えたモダンな外観の事業所がある。「一人ひとりの笑顔と想いを大切に、地域の一人としてみんなに愛されるホームを目指す」を理念に、その人の今までの生活の継続をしながら、今の生活に生かして過ごせるように、職員間で話し合いケアにつなげるように心がけている。地域の人脈や資源を活用しながら地域に開かれた事業所を目指して、敷地内に自販機とベンチを設置し、地域の方も憩える場の提供をしたり、地域の祭りの子ども獅子の立ち寄りや園児、中学生、ボランティアなどとの交流をしたり、四季折々の移ろいを感じながらの散歩や買い物、花見、外食などを一緒に楽しんでいるが、今年はコロナ禍で地域との関わりが踏みとどまっている。情報をこまめに入手して状況を確認しながら対応策を検討したり家族に情報を流したりしてケアに繋げるように工夫をしている。玄関ホールに椅子を置いて、面会の場や気分転換を図る憩いの場にしたり、農協に菜園の手入れを相談して育成を工夫し、四季の作物を入居者と一緒収穫して食卓に彩を添えている。季節の花見や外出、外食などの自粛に伴い、希望を聞いて弁当や寿司などの宅配を利用したり、週一回のお任せメニューや大エビフライ、バーベキュー、おやつなどを手作りして食生活を楽しんでいる。居間で、洗濯たたみや食事の下ごしらえを手伝ったり、ソファに腰掛け気の合う方とお喋りを楽しんだり、テレビを見たりしてのんびりと過ごしている。職員は、一人ひとりの笑顔と想い、その人なりの生活スタイルを大切に支えていけるように、気持ちを一つにしてケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をフロアに掲げ共有してより良い支援が出来るよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外食レクや買い物といった外出が新型コロナウイルス感染拡大の為に実施できない状況であります。誕生日やおやつレク、畑での作物の相談を近隣店舗や農協を利用して行い地域とのつながりを保っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	屋外での散歩等で外にいる際近隣の方から挨拶して頂けることもあり畑などでは近所の方から助言を頂く事もあります。ご家族様には毎月の施設での様子を施設だよりにて写真・居室担当者のコメントを添えてお伝えさせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度市の高齢福祉課・地域包括支援センター・民生委員・御家族様・入居者様にて実施しておりますが新型コロナウイルスの影響で中止となったり出入り制限がある中で感染対策を取りつつの実施となっております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	安心して治療が受けられるよう入院時には施設サマリー江尾作成して入院先への情報提供を行っている。緊急時には往診医へ連絡して紹介状送付を依頼している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のみ交通量の多い幹線道路に面している為施錠を行っておりますが施設内は開放して過ごさせて頂いております。身体拘束委員を定め定期的に勉強会を実施して身体拘束にならないケアの実施に取り組んでおります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で声を掛け合いながら虐待防止に努めており身体拘束と共に勉強会や動画研修によりどのような行為が虐待・身体拘束ととらえられるのかを認識して頂けるよう研修を実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会の実施は行っているが例年市が主催する勉強会等で勉強する機会があるが今年度は中止になる事も多く動画による研修のみとなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書に基づき説明を実施、不明な点があればその都度相談に応じ対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	申し送りノートや介護記録にて職員間で情報を共有してケアに反映させている。運営推進会議にて情報発信を行いケアに対して御家族様や本人の希望を取り入れより良いケアができるよう心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で出た意見や運営に関する意見を適時法人に伝え働きやすい環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人の勤務状況の把握に努め相談しやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会への参加や動画研修を取り入れて基本の再確認やスキルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会を実施していたが現在は中止となっており施設管理者同士の交流・情報交換が出来る場として機能していました。状況を見ながら再開のタイミングを計っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・御家族様と面談を行い本人の希望を伝えご家族様からも希望を聞き送りノートやミーティングによりスタッフ間で情報を共有して安心した生活作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時・面会等に御家族様とコミュニケーションを図りご家族様との信頼関係作りを行い相談事等随時対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時・サービス提供時にはご家族様から要望を伺い入居者様に必要とされるサービスの提供に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とスタッフで協力して共同生活を行い本人が出来る事は自己にて行って頂けるよう働きかけるだけではなく出来ない事は支援して行って頂く事で出来る喜びを感じて頂ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時のコミュニケーションや施設だよりを通じてご家族様に日常の様子を知って頂くと共に希望や要望に対しての変更がないかを確認させて頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスにより中止となつてはいるが面会時一緒に過ごして頂ける様に配慮したり外出外泊の機会を設けて頂けるように入居時にお伝えしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活歴を把握して共通の話題になりそうな話で会話に入ったり作業の際はその人のペースに合わせて作業が出来るよう働きかけ支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談頂けるようお声掛けをしたり年賀状により関係が途切れない様にしている他に地域の施設という事もあり出先でお会いする事も多くコミュニケーション行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や本人とのコミュニケーションを通じて希望や相談事を聞いている。申し送りノートを活用して本人の希望をスタッフ間で共有できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人やご家族様から生活歴を伺いスタッフ間で共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に記入する事で情報を共有し一人一人の身体状況や生活リズムの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングとカンファレンスを行い、その内容をケアプラン反映させると共に御家族様からの要望をお伺いしてケアプランの作成を行いご家族様・入居者様に説明を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・業務日誌・申し送りノートにより情報共有を行い、それをもとにカンファレンスを行う事で介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせた機能を取り入れADL低下防止に努め柔軟に対応出来るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今回ほとんどの行事等が中止となっているが慰問団体や子供会地域民生委員との関係維持に努め再開の際には声を掛けられるようにしている。誕生日会や外食の代替で行うレクに関しては地域の店舗からの購入を行い関係を継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診による専門医への受診はスタッフが行う事で医療機関への情報伝達が正確に出来るように努めている。元々受診していた専門医の受診等ではご家族様にも協力、外出の機会として協力して頂いていたが感染予防のため現在はスタッフにて行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの体調の変化も施設看護師の報告を行う事で異変の早期発見に努めている。訪問看護師にもすぐに連絡がつくようになっており適切な対応が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療を受けられるよう入院時には施設サマリーを作成して入院先への情報提供を行っている。緊急時には往診医へ連絡して紹介状送付を依頼している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で過ごされる場合に適切な対応が出来るよう御家族様・本人から希望を伺い往診医・訪問看護師と連絡を取りながらスタッフ間で情報を共有して適切な対応が行えるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習に参加しAEDの使用や心肺蘇生の知識を習得、急変時対応できるようにしており期間の空いたスタッフは再講習を行う予定		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様と共に避難訓練の実施や備蓄食料の使い方や災害時トイレキットを実際に使用体験を行い備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の行動や気持ちや自尊心を傷つけないような声掛け対応を心掛けているが職員によっては大きな声で聴いてしまう事もあり、その都度指摘して気を付ける様にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレや入浴時には必ず本人へ声掛けを行ってから誘導している。拒否が強い場合には無理強いをせずタイミングや声掛けの工夫して応じて頂けるような声掛けを行う様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせた生活を送れるように、どのように過ごしたいか伺いながら支援を行えるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣の際にはご本人に服を選んで頂くよう働きかけ自己決定が困難な入居者様には同じ服装にならないように配慮を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的な献立はあるが季節によって旬の食材を使ったメニューに変更したり季節によって麺類等は温かいもの、冷たいものと入れ替えたりしている。また誕生日にはリクエストを聞き本人が食べたいメニューを取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量・水分長を確認して介護記録に記入を行い本人にとっての適量であるかを確認しながら提供している。飲み込みや体調・体重の増減を考慮して食事量や形態の見直しも随時行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施、希望者には毎週1回の歯科往診にて歯科衛生士による口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録により個々の排泄パターンを理解すると共に、その人に合わせた声掛け・誘導を行いトイレで排泄できる様に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を観察すると共に起床時に水分補給や牛乳を飲んで頂くようにしている。朝食時には乳酸菌飲料等の提供を行うと共に体操や散歩等で体を動かして頂けるようにして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を目安に入浴を実施。本人の気分・体調に配慮した声掛けを行うと共に体調が悪い際には中止にする事もあるが不調が続く場合には陰洗や清拭を行う等で清潔を保てるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や気分、生活のペースに配慮しつつ本人が無理をして起きている事のない様に休息できるよう声掛けを行う様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の内容が分かる様に個人ファイルに最新の薬情をファイリングすると共に服薬確認・名前・日付確認を2人で行い間違いや服用忘れがない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動で出来る事を分担して行って頂くと共に趣味のある入居者様には趣味の時間を取れるよう配慮した働きかけを行っている。特定の趣味がない方に関してはゲーム等に参加して頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外食や喫茶レク等で外出できる機会や楽しみを設けていたが新型コロナウイルスにより自粛が続いている。ある程度治療薬や感染時対応が確立して外出できるようになった際には買い物同行や外食等再開させていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にてお預かりさせて頂いているが遠足等の遠出や買い物等での外出の際には職員と共に使う事が出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様了解のもと本人希望時に電話で話せるようにして、用事でこちらから電話をした際に話して頂ける時間を作るといった配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りやカレンダーを作り掲示すると共に季節に合わせた工作物をレクにて作成して飾る事で季節感のある室内装飾を行えるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見守りや介助が必要な食事の時だけは座席を決めているが、そのほかの時間では仲の良い入居者様同士と一緒に座り会話を楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様に使い慣れた物を持って来て配置するといった配慮を行うと共に本人の使いやすさを考慮した配置を本人と相談しながら行う様になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の状況に合わせて出来る事は行って頂き出来そうなことを見つけ行って頂ける様に働きかけ出来ない事はお手伝いできるように支援を行っている。		